

中学校第3学年音楽科学習指導案

日時 平成25年10月18日（金）

指導者 教諭 赤星 裕子

1 題材名 「混声合唱の響き」

合唱教材『地球星歌 ～笑顔のために～』（ミマス 作詞・作曲／富澤裕 編曲）

2 題材について

（1）題材観

音楽の授業における「表現」のねらいは、表現活動の楽しさや喜び、感動を体験することにより、意欲を持って音楽を表現しようとする態度を育てることにあると考える。今回は合唱への取組のなかで、生徒が表現したいイメージを伝え合い、全員で一つの音楽をつくりあげる体験を通して、主体的・協同的な音楽活動につなげたい。

本題材は、学習指導要領の次の内容によるものである。

A表現（1）ア歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。ウ声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

教材として選んだ『地球星歌～笑顔のために～』は女声2パートと男声1パートで編曲された混声三部合唱曲で、優しく美しい旋律と伴奏に加え、地球の平和を願う歌詞が魅力的な楽曲である。

楽曲の構成においても、長調での曲の流れの間に短調の旋律が入ることや、全パートで和音を歌いながらイ長調から変ロ長調へ転調すること、転調を経て盛り上がる3回目のサビが、それまでのハーモニー（和声）と違ってユニゾン（斉唱）になっていることなど、様々な楽曲の工夫を体験しながら学ぶことができる。音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱・構成などの基本的な共通事項を学習しやすく、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解しやすい教材であると考ええる。

（2）系統観

第1学年	第2学年	第3学年
・心を伝え合う歌い方「パフ」 ・詩と音楽との関わり「赤とんぼ」「浜辺の歌」 ●混声合唱へのステップ	・曲想の変化の理解と表現の工夫「夢の世界を」 ・言葉を大切にした歌唱表現「夏の思い出」 ●混声合唱へのステップ	・歌曲の美しさを味わおう「花」 ・心の歌「花の街」「早春賦」 ●混声合唱の響き
～文化発表会・音楽会に向けて～ ♪ 全校合唱の曲		

(3) 生徒の実態

※ 省略

(4) 指導観

指導にあたっては共通事項をもとに楽譜を読み取ることや、曲にふさわしい表現の工夫を生徒自身にも考えさせることで、曲想表現の意識を高めさせたい。また、混声合唱の美しい響きの体感正しい音程づくりに始まると考える。そのため、発声の技能を習得できるための活動を並行しながらパート練習を通して多々強い音程の定着を図りたい。さらに、パート練習時だけでなく、少人数の不安感を補うためにも教師の範唱や機器類を活用した学習活動を進めていきたい。

○ 熊本型授業の展開について

合唱においては声をそろえる（音程、発声、曲想表現など）必要があるため徹底指導による活動が中心になる。発声練習やパート練習の十分な時間設定、CD・MDを活用しての音程の定着をはかりたい。その中で、表現の工夫を考えさせることや、生徒自身による自己評価の設定、主体的なパート練習の習慣作り等で、歌うことへの能動的な意識を高めたい。

また、合唱への取り組みの中で歌声のより良い変化や成長を積極的に探し、認め・ほめ・励まししながら、歌唱力だけでなく音楽活動全般に対する意欲を伸ばしていきたい。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・学習に対する生徒の興味・関心を高めるための活用。
- ・課題を一人一人の生徒に明確につかませるためのICT活用。
- ・音響機器の活用に加え、音と歌詞や楽譜の画像を組み合わせることで、学習効果を高める。

②生徒の活用

- ・繰り返し学習したり、練習したりして、知識や技能の定着を図るためのICT活用。

3 題材の目標

- 正しい音程の感覚を身に付け、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした合唱表現をする。
- 歌詞の内容や曲想を味わい、思いや意図をもって歌唱表現を工夫する。

4 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
題材の評価規準	歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	歌詞の内容や曲想を生かした歌唱表現や、声部の役割を生かし、全体の響きに調和させた歌唱表現をするための技能を身につけて歌っている。
学習活動における具体的評価規準	①「地球星歌」の歌詞の内容を味わいながら、歌唱表現することに意欲的である。 ②「地球星歌」の曲想に関心を持ち、曲にふさわしい表現を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。	①音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取っている。 ②歌詞の内容や曲想を感じ取って、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①旋律の特徴や言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身につけて歌っている。 ②歌詞の内容や曲想を味わい、全体の響きに調和させた歌唱表現をするための技能を身につけて歌っている。

5 指導計画及び評価基準（6時間取扱い 本時4時間目）

時	学習活動	関	工	技	評価基準及び評価方法
1 2	・曲の雰囲気をつかみ各声部の音取りをする。	○		○	（アー①）曲や歌詞に関心を持ち、各パートでの練習に意欲的に取り組もうとしている。（観察） （ウー①）自分のパートを正しい音程や明確な発音で歌うための技能を身につけている。（観察）
3 ④	・曲の構造や構成要素を確認し、声部の役割や楽譜中の記号を生かした合唱練習をする。（本時）		○	○	（イー①）速度や調性、楽譜中の記号（強弱等）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取っている。（ワークシート・観察） （ウー②）頭声発声を意識した発声と、強弱等を歌唱表現するための技能を身につけている。（観察）
5 6	・美しいハーモニーの響きを意識し、曲にふさわしい合唱表現を工	○		○	（アー②）曲想の工夫に関心を持ち、合唱表現を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。（観察） （イー②）歌詞の内容や曲想を感じ取って、曲に

	夫する。 「全校合同練習」			ふさわしい歌唱表現を考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (観察・ワークシート)
--	------------------	--	--	--

6 本時の学習

(1) 目標 正確なリズムや音程を取り、楽譜中の演奏記号等を生かした歌唱表現をすることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
導入 10分	1 発声練習をおこなう。 2 本時の学習内容を知る。	○口形や姿勢に気をつけて声を出させ、活動の雰囲気をつくる。 ○前時の学習を確認し、本時の課題をつかませる。	
	リズムや楽譜の演奏記号を意識して歌おう。		
展開 30分	3 演奏記号を確認する。 (1) 作者が一番大切に歌って欲しい言葉について考える。 【言語活動】(設定の意図) 楽譜から作者の意図を考えて説明することで、課題への意識を高めさせる。〔C:解釈・説明〕 (2) 楽譜中の記号を確認する。 (3) 歌詞の音読をする。	徹底指導 (ポイント) ◎曲の構成や記号に作者の意図や思いがあることに気づく活動から、各記号の理解を深め、本時の課題である演奏記号を歌唱表現につなげることの必要性を押さえる。 ○前時に記入したワークシートを利用し、楽譜に使われている演奏記号や、曲の構成と歌詞との関連に注目させ、作者の思いや意図を考える。 ○強弱や速さの変化を意識した音読をさせることで、歌唱表現につなぐ意識を高めさせる。	ワークシート・楽譜
	4 各パートに分かれて練習する。	能動型学習 (ポイント) ◎CD等の機器を活用することで、主体的にパートの音程やリズムを正確に取らせる。また、教師が各パートを回りながら一緒に歌うことで、具体的な表現方法をイメージさせる。	

	5 全体で練習する。 ・音程の確認 ・リズムの確認 ・速度の確認 ・強弱表現の確認 等	○他のパートと合わせることで、うまくできた部分と次時の課題部分をつかませる。 ◆評価【音楽表現の技能】 B 基準 頭声発声を意識した発声と、演奏記号やリズム等を歌唱表現するための技能を身につけている。 (観察) A 基準 頭声発声による発声と、演奏記号やリズム等を正確で豊かに歌唱表現するための技能を身につけている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ・音程やリズムを確認し、呼吸や姿勢、発声についてのアドバイスをおこなう。	テレビ・CD等
まとめ 10分	6 まとめの合唱をする。 7 本時のふりかえりをする。	○人数が少ないため、範唱CDと一緒に歌うことで安心感や達成感を高める。 ○全校合唱の練習に向けて、3年生としての自覚とリーダーシップをもたせる。	CD 自己評価